

**走り続けた1年4か月  
初の全国大会で試す実力**

「高校1年生の時にレスリング部副顧問の入江真司先生の勧めで体験入部に行ったのがきっかけでレスリングを始めました」と語る持丸さん。「最初は、ルールも全く分からず、レスリングを始めたいとは思わなかった」と当時を振り返りました。小学生の時に習っていた水泳や中学時代にサッカー部で鍛えたフィジカル（肉体的な強さ）を武器に、わずか1年4か月という短い期間で全国大会への切符を勝ち取りました。

持丸さんを指導する顧問の杉本京介先生は「彼の強みは、何事にも手を抜かず取り組み、自分を律することができる」と語り、普段からあいさつや周りへの感謝を忘れず、文武両道で猛練習に励んできた持丸さん。「自分がどこまでできるのか試してみたい」と闘志を燃やし、今年8月17日から20日に滋賀県で開催された全国大会「全国高校生グレコローマンレスリング選手権大会」に出場。1試合6分間を全力で戦い抜きましたが、初めての全



**持丸 陸** (東鷹高等学校 2年生)  
平成18年4月12日、福智町金田生まれの17歳。金田小・金田中学校卒業後、福岡県立東鷹高等学校に進学。取材中に見せたあどけない笑顔が印象的。身長 169cm 体重 71kg

# 持丸 陸

**Riku Mochimaru**  
全国高校生グレコローマンレスリング選手権大会に出場する持丸陸さん。全国大会での悔しさを糧に高みを目指す若きレスラーに迫ります。

今回の全国大会を「自分の知らない技やスピードへの対応ができなかったことが敗因」と冷静に分析する持丸さん。「悔しいですが、今の実力では全国レベルの相手に通用しません。来年は、悔いが残らないよう、今まで以上に練習を増やして自分を高めていきたい」と真剣な眼差しを向けました。高校最後の夏に向け、すでに走り始めている持丸さん。最高峰の舞台で勝ち進むことを夢に見て、全力で挑み続けます。

「負け」が強くした想い  
味わった力の差と悔しさ

国大会という緊張で、持丸さんの良さであるフィジカルを生かした戦いができず、一回戦敗退と悔しい結果となりました。



# 高崎 和

**Nodoka Takazaki**

血のにじむような努力で掴んだ全国大会への出場権。憧れの舞台への切符を手にした、高崎さんの想いと新たに走り出した夢に迫ります。



受け継がれる誇りを  
胸に挑む初の国体

幼少期にはダンスを習い、中学時代にはバスケットに打ち込むなど、「運動が大好き」という高崎さん。鞍手高校のオープンスクールで弓道部の見学にいったのが弓道との出会いでした。「最初は、簡単そうだと思っていましたが、実際はとても難しく、全体的に当たっていき中での当たった時はとても嬉しく、自分の成長がやりがいにつながり、弓道が好きになりました」と当時を振り返ります。

高校2年生の時、先輩である今川くるみさんが初の国体に出場し、その活躍を一番近くで見ている高崎さんは、「私も国体に出場し、良い結果を残したい」と思うようになり、弓道の稽古に没頭します。血のにじむような日々を重ねて、迎えた「令和5年度国体福岡県代表選考会」。1700人の弓士の中から4人に絞られる最終選考を勝ち残り、国体九州ブロックの部への出場権を掴みました。「私が先輩に憧れたように、今度は自分が先輩の憧れになれるよう全力で戦いたい」という熱い想



**高崎 和** (鞍手高等学校 3年生)  
平成17年7月22日、福智町赤池生まれの18歳。市場小・赤池中学校卒業後、福岡県立鞍手高等学校に進学。今年、自身初の国体弓道少年女子の部に、出場。弓道三段。

いで出場した「国体九州ブロックの部」。近的優勝、遠的2位で総合優勝を果たし、見事全国大会への出場権を獲得しました。

更なる高みを目指して  
まだまだ続く弓「道」

顧問の村井哲也先生は「今大会でミスはありましたが、平常心でしっかりと矢を引き続けたことがこの結果に繋がったと思います」と九州大会を振り返りました。

「優勝できてとても嬉しかったのですが、少しミスがあったので、全国大会ではミスをなくして優勝を目指したい」と10月開催の全国大会に向け意気込みを語った高崎さん。高校最後の夏と、弓道の更なる高みを目指す挑戦は、これからも続きます。

